

木工を通して東北支援 「森から海へのエール」

岐阜県立森林文化アカデミー

和田 賢治

4月より森林文化アカデミーにものづくり教員として着任しました和田です。今回は私が行っている木工を通しての東北復興支援活動について紹介したいと思います。

「2011年3月11日」という日付は新聞やテレビなどのマスメディアや普段の会話の中で毎日のように目にしたり、耳にしたりしてきましたが、すでに過去のものとして受け入れられているのではないのでしょうか?特に直接的な被害を受けなかった東北・関東以外に住んでいる人々にとってはその傾向は強いのではないかと感じます。かくいう私も、震災直後には義援金を寄付したり、支援物資を送ったりしたものの、それ以後は具体的な行動はしていませんでした。

しかし、同じ日本人が苦しんでいる現実から目を背けることができず、震災関連の報道が少なくなっていた昨年12月に、災害ボランティアバスツアーに参加し、宮城県七ヶ浜町へ行き、がれき撤去作業や仮設住宅でのイベントの手伝いなどのボランティア活動をしてきました。それを境に、私の仕事である木工を通じて東北の支援ができないかと考えるようになり、「森から海へのエール」というプロジェクト名で支援活動をスタートすることになりました。

●森から海へのエールとは

私が、このプロジェクトを考えるにあたり、重視した点は3つあります。

1. 自らの支援が見える形で残したい。
2. 自らの支援が現地でどのように使われるか見えるようにしたい。
3. 岐阜の特色を生かした取り組みにしたい。



▲森から海へのエールとは

震災復興支援といっても遠く離れた岐阜からできることは限られています。現地に入り直接的に長期間活動することは難しいため間接的に支援するしかありません。しかし、義援金を寄付したとしても、そのお金がどこを通じてどこに渡り、どう使われたかを把握するのは困難です。さらには、寄付したことすらも忘れてしまったり。どうせやるなら従来とは違う支援ができないかと考えて行き着いたのが、「木製フォトフレームを製作・販売し、その売り上げの50%を東北の漁業復興支援活動をしているNPO法人へ寄付する」というものでした。

幸いにも、親しい友人が趣味のダイビングを活かして、海中のがれき撤去作業など漁業復興支援を行う

「NPO法人三陸ボランティアダイバーズ」を立ち上げ活動していました。彼の団体なら、義援金の使い道もわかり、活動のメンバーもわかります。また、今回のフォトフレームは、一部岐阜県白鳥で間伐されたナラの木を使っています。実はこの間伐に私も関わっていません。材料の出所がわかる、作り手が見える、お客様が見える、寄付される団体が見える、どんな活動に使われたのか見える、という「見える支援」が成り立ちます。岐阜の森にもいいことであり、同時に東北の海にもいいことができる、この2つがパッケージングされたプロジェクトとなったのです。



▲幸いにも親しい友人が…

●フォトフレームにこめた思い

では、なぜフォトフレームなのか。それは、震災後、津波でかつての姿を失った町で、思い出の写真を探し求める多くの被災者の姿が強烈に印象として残っていたからで



▲フォトフレームにこめた思い

ず。もし、大切な写真、思い出の写真があるのであれば、ぜひフォトフレームに納めて飾り、日々の日常のなかでその写真を見てほしい、また、そのフォトフレームを見ることにより、自分がフォトフレームを買うことを通じて行った支援を忘れないでほしい、と願うからです。

●少額でも、自分ができるところを長期的に

おかげさまで、3月から販売を開始した「森から海へのエール」のフォトフレームは4ヶ月で375個お客様の手に渡り、売り上げ金の半分と寄付金を合わせて約53万円が「NPO法人三陸ボランティアダイバーズ」に寄付されました(6月末現在)。決して多額とはいえない寄付金額ですが、継続していくことに意義があると信じており、今後も引き続き木工を通じた支援活動を続けていきたいと思っています。

森から海へのエール <http://morikarayell.jimdo.com/>
三陸ボランティアダイバーズ <http://sanrikuvd.org/>

●地域とつながるものづくりを目指すなら
森林文化アカデミーへ!

詳しくは、TEL (0575)35-2525